



# JFS 規格を取得し新たな事業へとチャレンジ!



## JFS-B 規格適合証明取得 株式会社アガペファーム様 (加工品の製造・販売)

株式会社アガペファーム様は福岡県朝倉郡筑前町に本社を構え、農産物やその加工品の生産・販売などを行っていただけます。農地所有適格法人として認可されており、筑前町にある自社農場では、農薬・化学肥料の不使用にこだわった農産物を生産しています。自社工場では OEM 生産を行いつつ、熊本県産の八郎生姜を使用したオリジナルのジンジャーシロップ「金姜柑 (きんきょうかん)」などを生産しています。金姜柑は産官学の連携によって食品としての機能性に関する確かなエビデンスを取ることに成功しており、機能性表示食品の届け出も完了しています。その他にも、福岡県産の大豆の使用にこだわった豆乳なども自社工場で生産しています。品質の高さによって取引先から篤い信頼を寄せられ、現在では関東圏を中心とした高級スーパーや健康食品販売店に商品を提供しています。2024年2月に、主力商品である「乳酸菌発酵飲料ソイラクト」と「金姜柑」の生産において JFS-B 規格を取得されました。今回は、規格を取得された背景や狙い、今後のビジョンについて、取得に向けた動きを主導された櫻木様にお話をうかがいました。

—JFS-B 規格の取得に至った経緯をお聞かせください。

櫻木：2023年2月に加工品を生産する工場を新設することが決まり、何かしらの規格を取得しようと考えました。当初は他の規格を検討していたのですが、福岡県内で開催されたセミナーで JFS-B 規格のことを知り「こちらの規格の方が分かりやすいのではないかと考えました。そして、規格の取得に向けた動きをスタートさせました。JFS-C 規格の取得も検討したのですが、何かしらの認証を取得した経験がある社員がおらず、いきなりハードルが高い規格にチャレンジすると業務が混乱する恐れがあると危惧しました。そのため、まずは JFS-B 規格を取得することになりました。

—取得に向けて、社内でどのように活動されたのでしょうか。

櫻木：月に1度、社員全員が参加するミーティングを開催していました。会社一丸となって、JFS-B 規格の取得に向けた動きを進めていたというわけです。規格を取得するにはいくつも審査項目があるので「今月は項目1~5に取り組みましょう」みたいな感じで、それぞれの社員が宿題を持ち帰ります。そして、次のミーティングまでに宿題をやってくるというわけです。特定の社員に任せきりにするのではなく、全社員が主体性をもって取り組めたのは本当に良い経験になりました。

—現場の社員の方が中心になって取得に向けた動きを進められたのですね。

櫻木：基本的に現場の社員に任せていました。上から色々言うよりも、実際に現場で働く社員が頭を使い、行動することに意味が



あると考えていました。普段の業務をしながら取得に向けた動きを進めるのは大変だったかも知れませんが、社員の成長にも繋がったはずです。JFS-B 規格のガイドラインは内容も分かりやすく、食品製造の経験が少ない社員にとっても理解しやすいものだったというのは大きいですね。取得までの動きは、滞りなくスムーズに進んだと感じています。

—JFS-B 規格を取得したことで、社内的な変化はありましたでしょうか。

櫻木：食品安全に対する社員のレベルは格段に上がったと考えています。取得に向けた動きの中で新しい学びも多く、食品安全の知識は一気に増えたはず。加えて、社員の意識にも変化がありました。「工場の機械を修理する業者さんの体調チェックもした方が良いのではないか」といった具体的な意見が現場の社員から上がってくるようになったのです。食品製造の経験が少ない社員ばかりだったので、これには驚きました。規格の取得によって社員の意識が変わったことは、本当に大きな収穫ですね。

—JFS-B 規格を取得したことで、顧客の反応に変化はありましたか。

櫻木：信頼性の高い規格を持っているということで、安心してもらえますね。食品安全に対する意識も変化し、このような規格を取得する必要性は高まっていると感じます。特に商品を全国レベルで販売しようと考えている企業にとっては、信頼性の高い規格の取得は必須といっても良いのではないのでしょうか。何かしらの認証を取得しようと考えているならば、最初の一步として分かりやすい JFS-B 規格を推奨します。

—JFS-B 規格を活かした今後のビジョンをお聞かせください。

櫻木様：ハラール認証（イスラム教の教義に背かない食品であることを示す認証）の取得を考えています。ハラール認証を取得するには、JFS-B 規格のように信頼性の高い規格を保有している必要があるのです。福岡の博多港には中国からインバウンドのお客様がクルーズ船に乗ってたくさん来られます。実は中国からのお客様の中にはトルファンやウイグル出身のムスリムの方が少なくないのです。日本にはハラール認証の食品があまり多くないので、せっかく来日したのに日本の食事を楽しめないというムスリムの方が少なくありません。ハラール認証を取得すれば、当社の食品をムスリムのお客様にご提供することができるようになります。無事に JFS-B 規格を取得出来たので、いよいよハラール認証の審査を受けようと考えています。ムスリムの方のインバウンド需要をしっかりと取り込めれば、会社にとって大きなチャンスになります。

—今後は輸出などにも力を入れていくのでしょうか。

櫻木：どれくらいの規模になるかは分かりませんが、輸出についても前向きに検討しています。まずは香港や東南アジア、いずれは富裕層の多い中東などにも輸出したいですね。工場を新設して JFS-B 規格も取得しましたし、海外のお客様に満足していただける商品を生産する準備は整っていると考えています。

—JFS-B 規格を取得されたことで、新しい事業を開始される可能性もあるのでしょうか。

櫻木：他の食品メーカーさんに対するエンジニアリングの事業を開始することを考えています。当社は工場を新設する段階から JFS-B 規格の取得を検討しており、工場の設計にも規格を反映させました。その経験を活かし、他の食品メーカーさんに対し、JFS-B 規格の取得を織り込んだ形で工場を設計するエンジニアリングのサービスを提供したいのです。ニーズは間違いなくあると感じていますし、エンジニアリングの事業が会社を支える新たな柱になる可能性も十分にあると考えています。

—JFS 規格に対するご意見などがありましたらお聞かせください。

櫻木：非常に分かりやすく、使い勝手の良い規格だと思いますが、他の規格に比べて知名度が低いと感じます。もっと積極的にプロモーションを行い、知名度を上げてもらえると、取得した側としてはありがたいですね。とはいえ、福岡県内でも JFS 規格を取得した会社が増えていきますし、今後は知名度の上昇とともに JFS 規格の工場がどんどん増えていくのではないかと予想しています。

—本日はありがとうございました。



## Company Profile

社名 株式会社アガペファーム  
代表 藤木一行  
住所 〒838-0224  
福岡県朝倉郡筑前町 361-1  
創業 2013年10月17日  
URL <https://agapefarm.jp/>